

令和8年（2026年）夏号

阿伎留医療センター通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

「地域の輪を広げる、心温まる選択」

～病院ボランティアをご存じですか？～

■ ボランティアの語源

「ボランティア」という言葉を聞くと、「無償の奉仕」や「自己犠牲」といった、少し堅苦しいイメージを抱く方がいらっしゃるかもしれません。しかし、その語源を紐解くと、まったく異なる温かいニュアンスが見えてきます。

ボランティア（Volunteer）の語源は、ラテン語の「ウォルuntas（Voluntas）」だと言われています。これには「自由意志」や「自ら進んで行う」という意味があります。つまり、誰かに強制されるのではなく、「自分ができることを、自分の意志で、楽しみながら行う」ことこそが、ボランティアの本来の姿なのです。義務ではないからこそ、そこには純粋な優しさや、人と人との温かい心の交流が生まれます。

■ 病院ボランティアの「目的」と「役割」

では、なぜ病院にボランティア活動が必要なのでしょう。その目的は、一言で言えば「病院を、より温かく安心できる場所にする」ことです。

病院は、病気や怪我を抱えた患者さん、そしてそのご家族が集まる場所です。医療スタッフは日々、治療や看護に全力を尽くしていますが、慌ただしい日常のなかで、患者さんの「ちょっとした不安」に寄り添ったり、「話し相手がほしい」というお気持ちに十分な時間を割けなかったりすることもあります。

そこで大きな力を発揮してくださるのが、地域のみなさま（ボランティア）の存在です。医療の専門知識がなくても、「笑顔で挨拶をする」「そっと寄り添って話を聞く」といった何気ない行動が、不安を抱える患者さんの心をどれほど和らげるか計り知れません。

また、入院中という非日常の空間において、医療スタッフ以外の“地域の方”と触れ合う時間は、患者さんにとって社会とのつながりを感じられる大切なひとときです。ボランティア活動は、病院と地域社会をつなぎ、医療の場に温かい「人間らしさ」を吹き込む大切な架け橋なのです。



■ 緩和ケア病棟での活動をご紹介します。

・心やすらぐコーヒーサービス：月に2回、ボランティアさんが淹れたてのコーヒーを振る舞ってくださいます。病棟いっばいに香ばしいコーヒーの香りが広がり、患者さんやご家族にとって、心からホッとできる人気の時間になっています。

・お心に寄り添う「傾聴」：ベッドサイドで患者さんのお話を優しく、ただそのまま受け止めて聞いてくださいます。

何気ない日常の会話や昔の思い出話にボランティアさんが耳を傾けてくださることで、患者さんに笑顔があふれ、とても穏やかで良い時間が流れています。

・季節の草花が彩る庭園整備：患者さんやご家族が外の景色や空気を楽しめるテラスの庭園。ボランティアさんが草むしりなどのお手入れをしてくださっています。きれいに整備された草花を眺める時間は、病棟で過ごす皆さんの心に大きな癒しを届けてくれています。

・レクリエーション：季節の移ろいを感じるイベントやレクリエーションの際も、ボランティアさんが活躍して下さいます。準備や当日の運営を一緒にお手伝いいただき、患者さんやご家族と一緒に笑い合いながら、季節の行事を楽しんでいます。

院内でのさまざまな活動

病院玄関の庭園の整備、外来ロビーで開催されるコンサートの会場準備や補助、ご自身の特技を活かした楽器演奏、フットケアなど、があります。

■ あなたの一步が、誰かの笑顔とあなたの喜びに

ボランティア活動は、誰かのためになるだけでなく、ご自身の心が豊かになり、新しい生きがいを見つけられる場所でもあります。少しでも興味を持たれた方は、まずはお気軽にお問い合わせいただくか、見学にお越しください。みなさまの温かいお気持ちを、心よりお待ちしております。



【ボランティア募集に関するお問い合わせ】

詳しくは病院ホームページをご覧ください。

窓口：公立阿伎留医療センター 地域連携センター

Tel：042-558-0321 E-mail：chikirenkei@akiru.hospital

公立阿伎留医療センター 患者サービス改善委員会 発刊

阿伎留通信については、公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。（<https://www.akiru-med.jp/outline/page-6087/>）